

新型コロナウイルス感染症の影響について

令和2年度は節水型社会や人口減少の進展に新型コロナウイルス感染症の影響が加わり、本市の給水収益はリーマンショック時を超える大幅な減収となりました。給水収益の先行きは不透明であるため、令和3年度は、「中期経営計画2023」で掲げた経営改善の取り組みを前倒して実施するとともにさらに踏み込んだ改革を進めます。

新型コロナウイルス感染症による減収

令和2年度の給水収益は、全体として対前年度比4.1%の減(▲12.2億円)となる283.7億円となりました。

用途別では、主にご家庭に適用される「一般用」が外出自粛や在宅勤務の影響により、前年度比1.8%の増(+3.5億円)の200.2億円となったのに対し、サービス業や製造業などの事業所等に適用される「業務用」は休業要請等による営業自粛等の影響により、前年度比15.9%の減(▲15.6億円)となる82.8億円となりました。

令和2年度累計の給水収益

(税抜、単位：百万円)

	一般用	業務用	その他	合計
元年度	19,672	9,829	74.1	29,585
2年度	20,023	8,278	64.7	28,366
対前年度増減	351	△1,561	△9.4	△1,219
対前年度増減率(%)	2%	△16%	△13%	△4%

各月の給水収益(前年度比較)

(税抜、単位：百万円)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	影響額 (4~3月)
		うち	増減率	3%	4%	5%	▲1%	▲2%	3%	3%	▲0%	1%	2%	3%
一般用	増減額	42	67	83	▲23	▲37	48	53	▲1	18	33	49	30	351
うち	増減率	▲6%	▲24%	▲26%	▲30%	▲15%	▲15%	▲10%	▲14%	▲9%	▲13%	▲9%	▲15%	▲16%
業務用	増減額	▲39	▲213	▲186	▲271	▲116	▲150	▲78	▲133	▲66	▲115	▲59	▲130	▲1,561
計	増減率	0%	▲6%	▲4%	▲11%	▲6%	▲4%	▲1%	▲5%	▲2%	▲3%	▲0%	▲4%	▲4%
	増減額	4	▲148	▲105	▲295	▲153	▲104	▲26	▲136	▲49	▲81	▲10	▲99	▲1,219

令和2年度の主な取り組み事項

1. withコロナへの対応

新たな生活様式に対応した事業展開を進めます。

令和2年度は節水型社会の進展や人口減少に新型コロナウイルス感染症の影響が加わり、本市の給水収益はリーマンショック時を超える大幅な減収となりました。

環境の変化に対応し、引き続き安全・安心な水の安定的な供給を維持するため、DX化の推進、webや動画を活用した広報など、「withコロナ」の時代に対応した事業展開について積極的に検討・導入します。

DX化の推進

AIやICT/IoTなどの最新技術の活用を進め、業務の効率化、コスト削減に取り組んでいます。令和2年度は、定点カメラやドローンから取得した画像をAIにより解析し、水道施設の異常検知が可能か、兵庫県と共同でAIを活用した遠隔監視システムの検討を行いました。

令和3年度以降も新たな技術の導入可能性について調査・実証確認等を行い、可能なものから順次、試行導入を開始し利便性の向上・業務の効率化につなげます。

令和2年度に検討・導入を行った主な業務

画像解析技術による遠隔監視システムの検討
減圧弁維持管理業務の効率化・高度化の検討
水道標準プラットフォーム化の可能性調査

多様な支払い方法の提供

3.5 百万円

お客さまの利便性の向上のため、これまでの支払い方法に加えて、令和2年10月1日から、スマートフォン決済を導入しました。令和3年度7月末現在、「PayPay」等の計7種類のスマートフォン決済アプリを利用いただくことができ、納入通知書のバーコードを読み取ることで、24時間365日いつでも、どこでも水道料金等を支払っていただけるようになりました。



こちらのバーコードを、
モバイル端末のカメラで
読み取ってください。

市民の皆さまに必要な情報を的確に提供できるよう、WEB広報のプラットフォームとして水道局ホームページを全面リニューアルし、幅広い年代に向けた情報発信に取り組みました。

また、人々の生活に欠かすことができない水がどのような浄水過程を経て、各家庭にまで届けられているのかが理解できるよう、子ども向けの動画「神戸をめぐる水の旅 ～水道水が届くまで～」を制作するなど、webや動画を活用した広報に努めました。



ホームページの全面リニューアル
(令和2年度:9百万円)



浄水過程動画の制作
(令和2年度:3百万円)

2. 悪質事業者対策の強化

水回りの修繕に関するトラブルは全国的にも問題となっており、本市においても、消費生活センターへの相談が多数あることから、喫緊の課題となっています。

お客さまである市民の皆さまが安心して、修繕を依頼できる窓口として、水道局と建設局下水道部が開設している「水道修繕受付センター」の認知度向上のため、関係部局とも連携し、PR活動を引き続き実施するとともに、悪質業者への注意喚起を促すため、令和3年4～6月の水道メーター検針時に市内全戸に投函する、水道修繕受付センターの案内シールを作成しました。



水道修繕受付センター案内シール
(全戸配布)



水道修繕受付センター PRチラシ

3. 水道システムの最適化と災害への備え

次世代に、蛇口からいつでも水が飲める水道システムを継承するとともに、阪神・淡路大震災の記憶をつなぎ、あらゆる危機に強い水道をともに築きます。

震災を教訓に災害や事故に備えるとともに送水の安定性を図るため、市街地東部において大容量送水管の整備をしましたが、現在は、市街地西部において奥畑妙法寺連絡管の整備、北神地域において送水施設の再整備に取り組んでいます。

また、被害の軽減・早期復旧を目的とした「配水管の耐震化」「配水池の耐震化」に取り組むとともに、近年多発する豪雨等による土砂災害対策として、優先度や必要性に応じて、順次水道施設の土砂災害対策を行います。

配水管の更新・耐震化 更新延長 **33 km** **6,861** 百万円

(内、経年配水管更新工事 30km 5,675百万円)

【補助額】 **125** 百万円

高度経済成長期に布設した大量の配水管が更新時期を迎えることから、配水管の更新に積極的に取り組みます。

なお、更新にあたっては耐震化するとともに、水需要の減少を勘案し配水管のダウンサイジングを行う等、配水管網の再構築を推進します。

さらに事故発生時の影響が大きい路線についても、関係部局との協議を進めながら、更新を行います。



土砂災害対策

2 箇所

81 百万円

近年、激甚化・頻発化する豪雨による土砂災害に備えるため、土砂災害警戒区域に位置する浄水場、配水場等の水道施設について、崩壊土砂防止柵の設置や法面工などの対策工事を進めます。



基幹施設における事故等に備え、市民への影響を最小限に留めるために、基幹施設の複数系統化を計画的に実施します。

市街地送水施設の連絡(奥畑妙法寺連絡管整備)【R2決算】 33 百万円

【事業費(令和2年度～令和7年度予定) 6,513 百万円】

市街地西部(奥平野浄水場以西)は、基幹的な送水施設である2本の送水トンネルが単独で機能しています。
令和2年度から送水の安定性を高めるため、2本の送水トンネルを連絡する工事に着手しています。(令和7年度完成予定)



【施工状況 作業基地全景】



北神地区送水施設の再整備

【R2決算】 224 百万円

【事業費(令和2年度～令和4年度予定) 1,359 百万円】



花山ポンプ場(完成予想図)

有野・有馬地区方面、花山・唐櫃地区方面の給水の安定性を向上するため、平成25年度から有野・有馬地区の送水設備の整備、平成29年度から花山・唐櫃地区の送水設備の整備を行っています。

有野・有馬地区は、令和2年度末に新有野ポンプ場の運転を開始し、複数系統化が確保されました。花山・唐櫃地区は、令和2年度から花山ポンプ場と送水管の工事に着手し、令和4年度に複数系統化が確保できる見込みです。